

平成 18 年 3 月 3 日版

新潟県中越地震の斜面複合災害のモニタリングに関する研究

- メカニズム、維持管理、景観、生態系、廃棄物等の総合的斜面工学からの検討

- ・ 第 12 回斜面工学研究小委員会で承認
- ・ 5 月 14 日の現地調査メンバーで検討
- ・ 2006/03/03 の編集委員会で修正（赤は章のまとめ担当、緑は節のまとめ担当）

今後のスケジュール

- ・ 3 月末までに原稿を太田 h p 担当まで送る。必着。
- ・ 4 月 11 日（火）までに各章の責任者は取りまとめて、原稿を後藤委員長まで送付。
- ・ 4 月 2 1 日（金）入稿
- ・ 5 月 8 日（月）納品
- ・ 5 月 1 1 日（木）の斜面講習会で配布（予定）

目次案

1. はじめに（後藤）
2. 新潟県中越地震の概要（稲垣）1 次原稿提出済み
 - 2.1 地震の概要（中村(洋)）1 次原稿提出済み
 - 2.2 地形・地質（中村(洋),川畑）1 次原稿提出済み
 - 2.3 断層（中村(洋)）1 次原稿提出済み
 - 2.4 植生（佐々木(寧)）
 - 2.5 景観（中野）
 - 2.6 土壌雨量指数と斜面崩壊（岡田）1 次原稿提出済み
 - 2.7 積雪環境（櫻井）
 - 2.8 被災状況（稲垣）1 次原稿提出済み
3. 斜面崩壊（後藤）
 - 3.1 自然地盤の斜面崩壊（上野，桜井，佐々木靖，中村(洋)，鈴木，小川，向谷，宮崎，Sidle，伊藤）
 - 3.1.1 分類と特徴（素因と誘因）
 - 3.1.2 崩壊事例
 - 3.1.3 地形と斜面崩壊（中村(洋)）
 - 3.1.4 雪解け時の斜面崩壊
 - 3.2 棚田、溜池等の被災状況（青木，中野）1 次原稿提出済み
 - 3.3 斜面对策工の被災状況（岩佐，平田，太田，西川，柏熊，小川）
 - 3.4 雪崩防護柵等の被災状況（櫻井，岩佐）
 - 3.6 住宅地における斜面災害（太田，釜井，稲垣，西川，柏熊）1 次原稿提出済み
 - 3.7 鉄道における斜面災害（島村，外狩，友利）

- 3.8 高速道路における斜面災害（天野，築瀬）
- 3.9 河道閉塞の発生状況（中濃，後藤，小川）
- 4．景観と斜面災害（中野）
 - 4.1 棚田（青木，中野）1次原稿提出済み
 - 4.2 斜面景観（中野，外狩）
- 5．生態系と斜面災害（佐々木(寧)）
 - 5.1 植生と斜面崩壊（佐々木寧，桜井）
 - 5.2 斜面植生の崩壊と保全効果（佐々木寧，桜井，岩佐，中野，稲垣）
 - 5.3 植生による防災効果（桜井）
- 6．斜面と災害廃棄物（大野，宮原）
 - 6.1 斜面災害などから生じるごみの現状
 - 6.2 斜面と災害廃棄物
- 7．斜面災害の復興状況（中濃）
 - 7.1 砂防（中濃，小川）
 - 7.2 治山（桜井）
 - 7.3 道路（築瀬，天野）
 - 7.4 鉄道（外狩，島村）
 - 7.5 宅地（太田，釜井）
 - 7.6 棚田（青木，中野）1次原稿提出済み
 - 7.7 復興時の労働災害（伊藤）1次原稿提出済みの1年後の比較はこの前段で使ってください
- 7.8．斜面災害のモニタリング（大野，後藤，小川，稲垣）
 - 8.1 崩壊・地すべり（後藤，小川，稲垣）
 - 8.2 流出土砂量（小川）
 - 8.3 植生（佐々木寧，岩佐）
 - 8.4 景観（中野，青木）
 - 8.5 災害廃棄物（大野）
- 8.9．まとめ（後藤，稲垣，中野，佐々木，大野）

備考

1. 報告書の書式

・報告書の書式は、土木学会論文集の書式に統一する。ただし、先頭の著者名や概要は省略する。雛形は別途送ります（後藤委員長）。

2. 詳細

・図表や写真の番号

図表や写真の番号は、節の番号-通し番号とする。（例）図 3.2-1（3.2 節の 1 番目の図の場合）

・写真には、地点番号と日を記載する（モニタリングの研究のため）

写真 3.2-1 タイトル（53 地点：05.1.15）

・参考文献は、各節の最後に設ける。

・執筆者名は、各節の最後に（ ）書きで、記載する。

例（稲垣秀輝・太田英将）

・各章の取りまとめ責任者は、各節の原稿を編集し章を完成させる。内容と書式をチェックする。オフセット印刷なので、印刷して書式を確認し修正する。

・各章の編集権は、各章の取りまとめ責任者に一任する。各自の第 1 次原稿は H P にも掲載される。

（資料）メーリングリストより抜粋

報告書の書式等

・土木学会の重点研究の報告書

<http://www.jsce.or.jp/library/page/juhten/index.html>

・土木学会論文集の書式に統一する。

・文章の最後に括弧書きで著者名を記載

報告書の印刷

ウェブでの報告書公開以外に、報告書のカラー印刷

・ A 4 版約 70 ページ（両面、そのうちカラー約 20 ページ、くるみ製本）、500 部印刷。

・予算が限られているので、もしページ数が増えたら部数やカラー ページ等を減らす。

・500 部印刷した報告書は、関係機関に配布

・5 月 11 日開催予定の斜面一般書の講習会や、土木学会全国大会（9 月 20 日～22 日、立命館大学）、その他催し物でも配布

各章の責任編集

1. はじめに（後藤委員長）

2. 新潟県中越地震の概要（稲垣副委員長）

3. 斜面崩壊（後藤委員長）

4. 景観と斜面災害（中野委員）

- 5 . 生態系と斜面災害（佐々木（寧）委員）
- 6 . 斜面と災害廃棄物（大野幹事）
- 7 . 斜面災害の復興計画と対策案（中濃委員）
- 8 . 斜面災害の長期モニタリング計画（大野幹事）
- 9 . まとめ（後藤委員長）

3 . その他

- ・ 各メンバーが対外的に成果を発表するときは、速報・中間報告・最終報告のHP（または報告書）等を引用し、謝辞に例えば「・・・に関する研究（調査）は土木学会斜面工学研究小委員会の平成 17 年度重点研究により実施した」のような文章を入れて宣伝してください。（今後 3 期，4 期・・・と継続する可能性があるため）
- ・ 資料の収集機関のリスト作成と引用許可

報告書に用いる図表や写真の引用許可が必要な場合は、後藤まで連絡して下さい。引用許可を正式に申請します。無断引用は厳禁します。

以上